

令和5年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等：医学系研究科

事業担当者の職・氏名：看護学科 教授 谷村 晋

内線電話番号：6248

電子メール：aruminat@med.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

看護学科/看護学専攻 2023年度国際交流

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

看護学科および看護学専攻の学生が、来日する海外研究者との機会をもつことにより、海外への関心や交流活動の積極性を高めることを目指し、従来から実施しているドイツ・フライブルクカトリック応用科学大学 (CUASF) との相互交流を継続する。今回は臨床アートセラピーの教授を招聘し、臨床や地域において、アートセラピーによる患者や住民との創造的な活動を通じて、心のケアや健康増進の支援について学ぶ機会とする。また新型コロナウイルス感染症流行下で滞っていた対面での交流を再開する第一歩として、国際室長を招聘し、将来的な学生の国際交流ならびに教員の国際協働研究について検討する機会とする。

(2) 事業の背景・これまでの実績

CUASF はドイツ・フライブルク市に位置し、保健医療や教育に関する 7 つの学士プログラムと 4 つの修士プログラムを有する大学であり、教育学部の交流を端緒として、医学系研究科 (看護学専攻) との協定に発展した。コロナ禍以前は、活発な学生交換、短期・中長期の留学生派遣、附属病院看護師の視察訪問などを活発に行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、学生交換が止まり、Zoom による交流のみとなっていた。

(3) 事業実施結果

Monika Wigger 先生によるアートセラピーのワークショップを開催し、25 名 (学部生 11 名、大学院生 2 名、附属病院 1 名、教員 11 名) が参加を得た。



また、CUASF 側と対面による交流再開の討議が実現し、オンライン会議ではなし得ない細部までの検討をすることができた。大学病院や志摩市民病院の視察などを通じて情報交換による相互理解を深めることができた。

(4) 事業の意義

本事業により、看護学専攻・看護学科の国際交流の本格的に再開に目処がたちつつある。今後の活発な CUASF との国際交流により、学生・大学院生の国際的

視野が広がるとともに、活発な国際交流を理由に三重大学看護学科を受験する受験生のさらなる増加が期待される。

(5) 事業の発展性

本事業により、看護学専攻・看護学科における本格的な国際交流再開と活性化が期待される。CUASF 側から学术交流や教員間交流も求められており、さらなる発展が期待される。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

国立大学法人三重大学 第4期中期目標 I 教育研究の質の工場に関する事項 2 教育のうちの「学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。」に大いに有効な事業である。

(7) その他

令和5年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

ドイツ・フライブルクカトリック応用科学大学は、三重大学医学系研究科の提携校であり、看護学専攻・看護学科と活発に交流してきた。学生の派遣と受け入れ、短期・長期留学、教員や病院看護師の派遣と招聘を行ってきた。今回、ドイツ・フライブルクカトリック応用科学大学から、アートセラピー専門家である Monika Wigger 先生を日本に招いて、ワークショップを開催した。多数の学生、大学院生、留学生、教員、病院職員が参加してアートセラピーの一部を体験した。



写真は、6名が持つ紐の先に絵筆が固定されており、この絵筆で絵を書いてみるアートセラピーである。6人が同時に紐を操作し協働することで絵を描くとき、6人にそれぞれの思いと動きがあり、自分の思い通りには全くならず協調の難しさを実感することができた。

令和5年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

The Catholic University of Applied Sciences Freiburg (Germany) is a partner university of Mie University Graduate School of Medicine (namely, School of Nursing Science). We have exchanged students, graduate students, faculty members, and hospital nurses. Supported by the program, we invited Prof. Monika Wigger, an art therapy specialist from the Catholic University of Applied Sciences Freiburg, Germany, to Japan for an art therapy workshop. A number of students, graduate students, international students, faculty members, and hospital staff participated and experienced a part of art therapy.



The picture shows an art therapy session in which six participants tried to draw a picture using a paintbrush attached to the end of a string held by each of them. The six participants simultaneously manipulated the string and worked together to draw a picture. Since they had their own ideas and movements when they drew the picture, they could realize the difficulty of cooperation because they did not always get what they wanted.